

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02633

研究課題名（和文）年齢と余命に関連する2つの過程が高齢者の幸福感に与える影響の長期縦断的検証

研究課題名（英文）Longitudinal study of the effect of aging and dying process on well-being of the older people.

研究代表者

権藤 恭之（Gondo, Yasuyuki）

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：40250196

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 15,000,000円

研究成果の概要（和文）：感情状態に対する加齢の影響と死が接近することの影響を検討した。SONIC研究参加者約3000名の追跡調査を行い、ポジティブ・ネガティブ感情に対して、年齢コホート、参加からの経過時間、死亡までの時間、性別との関連を検討した。その結果、高い年齢群でポジティブ感情が高く、ネガティブ感情が低いという関係は確認されたが、加齢と死が近づくことの影響は見いだされなかった。本研究期間は6年と短かった。若い年齢群では死亡した参加者が少なく、高い年齢群の参加者では追跡研究の参加者が少なかった。そのため、年齢群のみの影響が強く確認され、加齢や、死に近づくことのネガティブな影響が確認されなかった可能性が考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はまず第1に、90歳以上の高齢者においてポジティブ感情が高く保たれ、ネガティブ感情が低いことを見出した。このことは超高齢者社会における朗報であるといえる。一方で加齢や死に近づくといった時間経過に伴う変化を見出すことはできなかった。このことは高齢者を対象とした縦断研究デザインや期間をさらに検討する必要性があることを示唆した。

研究成果の概要（英文）：The effects of aging and approaching death on emotional states were examined by following approximately 3,000 participants in the SONIC study. We examined associations with age cohort, time since participation, time to death, and gender for positive and negative emotions. The results confirmed the relationship of higher positive and lower negative affect in the higher age groups, but found no effect of aging and approaching death. The duration of this study was a relatively short period of 6 years. Also, fewer participants died in the younger age groups, and fewer participants in the higher age groups were available for follow-up studies. these factors might have caused the results that the effects of only the age group were strongly confirmed and that the negative effects of aging and approaching death were not identified.

研究分野：高齢者心理学

キーワード：エイジングパラドクス 老化 幸福感

1. 研究開始当初の背景

近年世界的に、高齢者を対象とした発達心理学研究が増加している。我が国の高齢者の人口動態に注目すると、70歳の平均余命は男性16年、女性20年であり、高齢期に到達してから死に至るまで、多くの人々が20年以上の長い期間を過ごす。しかし、高齢者を対象とした研究の多くは、比較的資源の喪失が少ない前期高齢期(74歳以下)までしか視野に入れていない。今後、団塊の世代の半数が超高齢期(85歳以上)を迎える現状を踏まえると、長寿を達成した人の生涯を視野にいれ、加齢だけでなく死に向かう過程も考慮した発達心理学モデルの構築がとなる。

幸福感を扱う加齢研究において、加齢に伴い身体的機能や健康状態が低下するにもかかわらず、中年期から高齢期に向けて幸福感が高くなる、もしくは高齢者の幸福感は低くないというエイジングパラドックスと呼ばれる現象が注目されている。この現象は、加齢に伴って身体機能、社会関係、認知機能といった個の自立や自尊感情を支える資源が低下する一方で、低下に対する認知的制御が機能することで生じると考えられている。これまで、選択・最適化・補償モデル(SOC; Baltes, et al., 1999)、同化・調節の二重過程モデル(Brandtstädter & Renner, 1990)、一次的・二次的コントロールの最適化モデル(OPS; Heckhausen, et al., 1998)、社会情動的選択性理論(SST; Carstensen, 1992)などのモデルが実証研究で支持されてきた。

一方、近年の縦断調査では死亡をエンドポイントとしたデータ分析が可能となり、死亡時期が近づくにつれて幸福感が低下するという知見が報告されはじめた。死亡前に、急速に認知機能や身体機能が低下する終末期低下と呼ばれる現象は、認知機能研究で古くから知られており、身体の病的加齢がその原因だと推測されている。幸福感の低下も同様に加齢に伴い慢性疾患が増加し、生理的機能が低下する(死が近づく)ことで生じるのではないかと考えられている。

長寿社会に突入した現代では、1) エイジングパラドックスが、生涯に渡って継続するのか、2) 継続するのであれば、既存のモデルで説明可能であるのか、という新たな問題が提起される。認知的制御による適応モデルは、認知機能だけでなく、身体機能、社会関係等の資源が十分保たれた前期・後期高齢者までのエイジングパラドックスを説明するモデルとして支持されている。しかし、このモデルに基づくと、自立や尊厳を維持するための資源の低下が顕著となり認知機能が低下する超高齢者では、幸福感は低下するという結論が導かれる。実際、生涯発達心理学の祖であるバルテス(P.B. Baltes)が主任研究者であるベルリンエイジング研究では、超高齢者は、心理的・身体的・社会的資源の喪失が顕著であること、そしてそれらの喪失によって方略を機能させることが困難になり、人生満足感やポジティブ感情が低くなることが報告されている。一方、超高齢者の幸福感の高さを報告する研究も複数存在する。例えば、権藤ら(2006)は、バルテスらと同様の顕著な資源喪失を示すが、超高齢者の主観的健康感および主観的幸福感は低下しないと報告している。これらの知見は、エリクソン(J.M. Erikson)が指摘した、超高齢期における第9段階と呼ばれる精神的な発達と幸福感の獲得に対応している。このように、超高齢期の幸福感に関しては相反する知見が併存しているといえる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、5年間の研究期間で前期高齢者、後期高齢者、超高齢者を対象とした9年間の縦断調査を完成させ、エイジングパラドックスが高齢期を通して生じるのかを検証することであった。本研究では、Charles(2010)によるStrength and Vulnerability Integration (SAVI)モデルの強みと弱みの2側面に注目した枠組みを利用した。加齢による強み(Strength)は、ポジティブ感情を高める機能を持つ認知的制御が経験により発達することであり、弱み(Vulnerability)は、死に近づくことで生理的な柔軟性の低下(physiological flexibility)が増大するためにネガティブ感情が高まることである。

本研究において、強みは心理・社会的な加齢プロセス、弱みは医学・生理的な加齢プロセス(死への接近)と密接に関連すると考えた。ただし、2つのプロセスが独立すると想定すると、弱みが増大する超高齢者における幸福感の高さを説明することができない。そこで、高齢期以降に昂進する弱みの増大は認知的制御を制限する一方で、ネガティブ情報の処理の低下(Cacioppo, 2011)という強みも並行して引き起こすために、年齢が高くなればなるほどネガティブ感情が低下するとう仮説を立て、加齢と死への接近という2つのプロセスが感情状態に影響するのかを統合して検証することとした。

3. 研究の方法

(1) 対象者

本研究は、SONIC研究を基盤とする。SONIC (Septuagenarian, Octogenarian, Nonagenarian Investigation With Centenarian)研究は、関東と関西のそれぞれにおいて都市部と非都市部を選定し、各地域で3つの異なった年齢コホート(70歳、80歳、90歳)を対象としたパネル調査であり、平成22年度から継続中である。

本研究期間中は、70歳群の第3波、第4波調査、80歳群の第3波および第4波調査、90歳群の第2波、第3波、第4波調査および追加の新規サンプルを対象として会場招待型調査を行った。調査参加者の人数と内訳をそれぞれの年に分けて述べる。2017年は2つの群を対象として

2017年7月から2018年3月にかけて会場招待型調査を行った。80歳群を対象とした第3波調査では493名の参加を得た。加えて、70歳群で前年度の第3波調査に参加していない対象者に参加を呼びかけたところ79名の追加の参加を得ることができた。2018年は、3つの群を対象として2018年7月から12月にかけて会場招待型調査を行った。90歳群の第2波調査では96名および訪問調査11名、第3波調査では26名および訪問調査10名の参加があり、さらに新規サンプルとして262名の参加を得ることができ、合計では384名と訪問調査21名となった。加えて、80歳群のうち、前年度の第3波調査に参加していない54名の参加を得た。2019年は、2018年7月から12月にかけて70歳群の第4波調査を行い、550名の参加を得た。2020年は、COVID-19の感染拡大のために会場招待型の調査は実施できなかったため郵送調査を行った。2021年は2020年9月から2022年3月にかけて会場招待型調査を行った。対象者は、2020年度に実施ができなかった80歳群第4波調査と90歳群第2波から第4波調査をあわせた。80歳群の第4波調査は168名の参加を得た。90歳群の第2波調査では61名、第3波調査では29名、第4波調査では6名の参加を得た。以上の参加状況をまとめた一覧が表1である。SONIC研究開始時点から2022年3月末まで、全参加者数は3325名となった。

表1 SONIC研究の参加状況

年度	既に収集されたデータ						研究期間中に収集したデータ						
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
年齢70	70(100%)		73(94%)			76(87%)			79(80%)				
会場	1000		681(68%)			757(55%)			550(45%)				
訪問その他						209(15%)							
年齢80		80(100%)		83(85%)			86(67%)			90(48%)			
会場		973		624(64%)			516(45%)			168(35%)			
訪問その他				47(5%)			237(20%)						
年齢90 1			90(100%)		93(59%)			96(28%)		99(11%)			
会場			272		72(26%)			26(10%)		6(5%)			
訪問その他					45(17%)			46(20%)					
年齢90 2					90(100%)			93(59%)		96(28%)			
会場					326			96(30%)		29(10%)			
訪問その他								48(20%)					
年齢90 3								93(59%)		96(28%)			
会場								262(30%)		61(10%)			
訪問その他													

年齢の後ろの ()内は年齢群ごとの日本人の生存率

(2) 調査内容

調査全体は、質問紙、測定（身体機能、認知機能）医学調査、歯学調査で構成される。本研究では、感情的 well-being（ポジティブ感情、ネガティブ感情）、人生満足感、WHO-5 精神健康状態を中心に分析に用いた。

4. 研究成果

既に収集していたデータも含めて、感情的 well-being（ポジティブ感情、ネガティブ感情）（中原，2011）の70歳、80歳、90歳コホートの第1波から第3波のデータを作成し分析に用いた。

(1) 加齢のプロセスからみた高齢期の幸福感

加齢のプロセスからみた高齢期の幸福感に対する時間の影響を検討するために、現時点で生存が確認できている2814名を対象とした分析を行った。従属変数として各参加者の最終参加回のポジティブ感情およびネガティブ感情のスコアを用い、独立変数として性別とコホートの交互作用項、初回参加から最終参加までの日数を投入した重回帰分析を行った。

ポジティブ感情に対しては、性別と年齢コホートの交互作用項が有意な影響を及ぼしていた。すなわち、女性の90歳コホートにおいて有意に得点が高く、ポジティブ感情が高いことが示された。続いて、ネガティブ感情に対しても、性別とコホートの交互作用項が有意な影響を及ぼしていた。すなわち、女性の90歳コホートにおいて有意に得点が低く、ネガティブ感情が有意に低いことが示された。図は、ポジティブ感情およびネガティブ感情に対する性別と年齢の影響を表したものである。

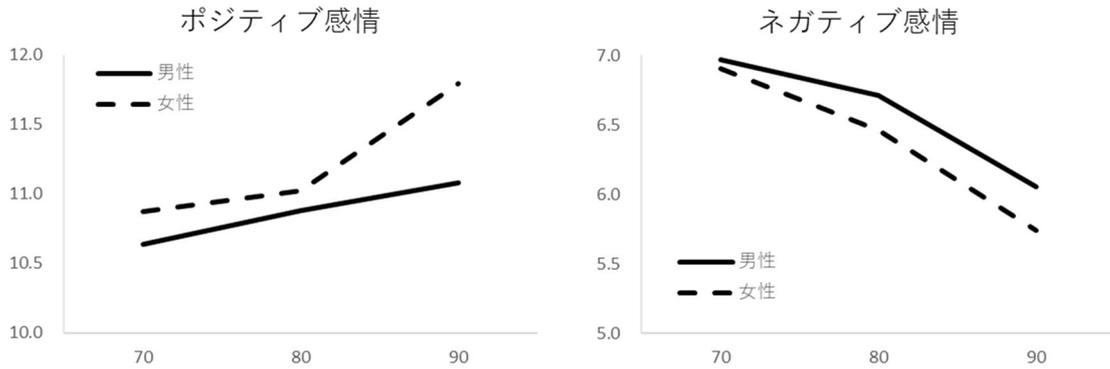


図 ポジティブ感情およびネガティブ感情に対する性別と年齢の影響

(2) 死への接近のプロセスからみた高齢期の幸福感

SONIC 研究開始時点から 2022 年 3 月末まで、全参加者 3325 名のうち、511 名の死亡が確認できている。年齢群ごとにみると、70 歳群 99 名 (8.1%)、80 歳群 218 名 (17.7%)、90 歳群 194 名 (22.0%) である。このうち、死亡年月日が判明している参加者について、死亡年齢と人数および割合は表 2 の通りであった。

表 2 死亡が判明している参加者の死亡年齢と人数および割合

死亡年齢	人数(人)	割合(%)
69	1	0.2
70-74	20	4.0
75-79	51	10.0
80-84	74	14.5
85-89	107	20.9
90-94	115	22.6
95-99	67	13.1
100	2	0.4
不明	74	14.5
合計	511	

死への接近のプロセスからみた高齢期の幸福感を検討するために、2 つの分析を行った。

各参加者の最終参加回の感情的 well-being に対する時間の影響

各参加者の最終参加回の感情的 well-being に対する時間の影響を検討するために、死亡が確認できている 511 名を対象とした分析を行った。従属変数として各参加者の最終参加回のポジティブ感情およびネガティブ感情のスコアを用い、独立変数として性別とコホートの交互作用項、初回参加時の年齢、最終参加から死亡までの日数、初回参加から最終参加までの日数を投入した重回帰分析を行った。

ポジティブ感情に対しては、有意な影響を持つ変数はみられなかった。続いて、ネガティブ感情に対しては、初回参加時の年齢が有意な影響を及ぼしていた。すなわち、初回参加時の年齢が高いほどネガティブ感情が有意に低いことが示された。

各参加者の初参加と最終参加の感情的 well-being の差分に対する時間の影響

各参加者の初参加と最終参加の感情的 well-being の差分に対する時間の影響を検討するために、2 回以上参加している 199 名を対象とした分析を行った。従属変数として各参加者の最終参加回のポジティブ感情およびネガティブ感情のスコアを用い、独立変数として性別とコホートの交互作用項、初回参加時の年齢、最終参加から死亡までの年数、初回参加から最終参加までの日数を投入した重回帰分析を行った。

ポジティブ感情に対しては、初回参加時の年齢が有意な影響を及ぼしており、初回参加時の年齢が高いほどポジティブ感情が有意に高いことが示された。続いて、ネガティブ感情に対しては、有意な影響を持つ変数は見られなかった。

(3) まとめ

Strength and Vulnerability Integration (SAVI) モデルに基づき、感情状態に対する加齢の影響と死が接近することの影響を検討した。SONIC 研究参加者約 3000 名の追跡調査を行い、ポジティブ・ネガティブ感情に対して、年齢コホート、参加からの経過時間、死亡までの時間、性別との関連を検討した。その結果、高い年齢群でポジティブ感情が高く、ネガティブ感情が低いという関係は確認されたが、加齢と死が近づくことの影響は見いだされなかった。本研究期間は 6 年と短かった。若い年齢群では死亡した参加者が少なく、高い年齢群の参加者では追跡研究の参加者が少なかった。そのため、年齢群のみの影響が強く確認され、加齢や、死に近づくことの影響が確認されなかった可能性が考えられた

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 30件／うち国際共著 7件／うちオープンアクセス 22件）

1. 著者名 Sala Giovanni, Jopp Daniela, Gobet Fernand, Ogawa Madoka, Ishioka Yoshiko, Masui Yukie, Inagaki Hiroki, Nakagawa Takeshi, Yasumoto Saori, Ishizaki Tatsuro, Arai Yasumichi, Ikebe Kazunori, Kamide Kei, Gondo Yasuyuki	4. 巻 14
2. 論文標題 The impact of leisure activities on older adults' cognitive function, physical function, and mental health	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0225006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hatta Kodai, Ikebe Kazunori, Mihara Yusuke, Gondo Yasuyuki, Kamide Kei, Masui Yukie, Sugimoto Ken, Matsuda Ken ichi, Fukutake Motoyoshi, Kabayama Mai, Shintani Ayumi, Ishizaki Tatsuro, Arai Yasumichi, Rakugi Hiromi, Maeda Yoshinobu	4. 巻 36
2. 論文標題 Lack of posterior occlusal support predicts the reduction in walking speed in 80 year old Japanese adults: A 3 year prospective cohort study with propensity score analysis by the SONIC Study Group	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Gerodontology	6. 最初と最後の頁 156 ~ 162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ger.12393	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kiyoshige Eri, Kabayama Mai, Gondo Yasuyuki, Masui Yukie, Inagaki Hiroki, Ogawa Madoka, Nakagawa Takeshi, Yasumoto Saori, Akasaka Hiroshi, Sugimoto Ken, Ikebe Kazunori, Arai Yasumichi, Ishizaki Tatsuro, Rakugi Hiromi, Kamide Kei	4. 巻 19
2. 論文標題 Age group differences in association between IADL decline and depressive symptoms in community-dwelling elderly	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-019-1333-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kiyoshige Eri, Kabayama Mai, Gondo Yasuyuk	4. 巻 81
2. 論文標題 Association between long-term care and chronic and lifestyle-related disease modified by social profiles in community-dwelling people aged 80 and 90; SONIC study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 176 ~ 181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2018.12.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Godai Kayo, SONIC study group, Kabayama Mai, Gondo Yasuyuki	4. 巻 43
2. 論文標題 Day-to-day blood pressure variability is associated with lower cognitive performance among the Japanese community-dwelling oldest-old population: the SONIC study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hypertension Research	6. 最初と最後の頁 404 ~ 411
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41440-019-0377-5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Srithumsuk Werayuth, Kabayama Mai, Gondo Yasuyuki, Masui Yukie, Akagi Yuya, Klinpuatan Nonglak, Kiyoshige Eri, Godai Kayo, Sugimoto Ken, Akasaka Hiroshi, Takami Yoichi, Takeya Yasushi, Yamamoto Koichi, Ikebe Kazunori, Ogawa Madoka, Inagaki Hiroki, Ishizaki Tatsuro, Arai Yasumichi, Rakugi Hiromi, Kamide Kei	4. 巻 20
2. 論文標題 The importance of stroke as a risk factor of cognitive decline in community dwelling older and oldest peoples: the SONIC study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-020-1423-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Godai Kayo, SONIC study group, Kabayama Mai, Gondo Yasuyuki	4. 巻 43
2. 論文標題 Day-to-day blood pressure variability is associated with lower cognitive performance among the Japanese community-dwelling oldest-old population: the SONIC study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hypertension Research	6. 最初と最後の頁 404 ~ 411
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41440-019-0377-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 権藤恭之	4. 巻 76
2. 論文標題 老化・長寿に関する疫学研究(2)健康長寿研究(SONIC)からの研究. 老年医学(上) 基礎・臨床研究の最新動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本臨牀	6. 最初と最後の頁 200-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa Takeshi, Jopp Daniela S, Gondo Yasuyuki, Lehrfeld Jonathan, Rott Christoph, Oswald Frank	4. 巻 2
2. 論文標題 Valuation of Life Among Old and Very Old Adults: Comparison Between Germany and Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Innovation in Aging	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/geroni/igy020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Martin Peter, Gondo Yasuyuki, Arai Yasumichi, Ishioka Yoshiko, Johnson Mary Ann, Miller L. Stephen, Woodard John L., Poon Leonard W., Hirose Nobuyoshi	4. 巻 31
2. 論文標題 Cardiovascular health and cognitive functioning among centenarians: a comparison between the Tokyo and Georgia centenarian studies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 455 ~ 465
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1041610218001813	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Cho J., Nakagawa T., Martin P., Gondo Y., Poon L. W., Hirose N.	4. 巻 29
2. 論文標題 Caregiving centenarians: Cross-national comparison in Caregiver-Burden between the United States and Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aging & Mental Health	6. 最初と最後の頁 1 ~ 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13607863.2018.1544221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Martin Peter, Gondo Yasuyuki, Arai Yasumichi, Ishioka Yoshiko, Woodard John L., Poon Leonard W., Hirose Nobuyoshi	4. 巻 27
2. 論文標題 Physical, sensory, and cognitive functioning among centenarians: a comparison between the Tokyo and Georgia centenarian studies	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Quality of Life Research	6. 最初と最後の頁 3037 ~ 3046
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-018-1943-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 権藤恭之	4. 巻 55
2. 論文標題 百寿者の国際共同研究の目的と成果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 570 ~ 577
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 権藤恭之	4. 巻 29
2. 論文標題 心理的加齢と脳の加齢の関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 742 ~ 748
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 権藤恭之・増井幸恵	4. 巻 -
2. 論文標題 嗜好品の継続摂取が高齢者の心身の機能に与える影響に関する縦断的検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成29年度公益財団法人たばこ総合研究センター助成研究報告	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satake Shosuke, Shimada Hiroyuki, Yamada Minoru, Kim Hunkyung, Yoshida Hideyo, Gondo Yasuyuki, Matsubayashi Kozo, Matsushita Eiji, Kuzuya Masafumi, Kozaki Koichi, Sugimoto Ken, Senda Kazuyoshi, Sakuma Mayumi, Endo Naoto, Arai Hidenori	4. 巻 17
2. 論文標題 Prevalence of frailty among community-dwellers and outpatients in Japan as defined by the Japanese version of the Cardiovascular Health Study criteria	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 2629 ~ 2634
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hatta Kodai, Ikebe Kazunori, Mihara Yusuke, Gondo Yasuyuki, Kamide Kei, Masui Yukie, Sugimoto Ken, Matsuda Ken ichi, Fukutake Motoyoshi, Kabayama Mai, Shintani Ayumi, Ishizaki Tatsuro, Arai Yasumichi, Rakugi Hiromi, Maeda Yoshinobu	4. 巻 -
2. 論文標題 Lack of posterior occlusal support predicts the reduction in walking speed in 80 year old Japanese adults: A 3 year prospective cohort study with propensity score analysis by the SONIC Study Group	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Gerodontology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ger.12393	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kiyoshige Eri, Kabayama Mai, Gondo Yasuyuki, Masui Yukie, Ryuno Hirochika, Sawayama Yasuka, Inoue Takako, Akagi Yuya, Sekiguchi Toshiaki, Tanaka Kentaro et al.	4. 巻 81
2. 論文標題 Association between long-term care and chronic and lifestyle-related disease modified by social profiles in community-dwelling people aged 80 and 90; SONIC study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 176 ~ 181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2018.12.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokoyama Serina, Oguro Ryosuke, Yamamoto Koichi, Akasaka Hiroshi, Ito Norihisa, Kawai Tatsuo, Kusunoki Hiroshi, Takeya Yasushi, Takeya-Onishi Miyuki, Yamamoto-Hanasaki Hiroko, Sugimoto Ken, Ikebe Kazunori, Gondo Yasuyuki, Ohishi Mitsuru, Kamide Kei, Rakugi Hiromi	4. 巻 11
2. 論文標題 A <i>klotho</i> gene single nucleotide polymorphism is associated with the onset of stroke and plasma klotho concentration	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aging	6. 最初と最後の頁 104 ~ 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18632/aging.101728	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fukutake Motoyoshi, Ikebe Kazunori, Okubo Hitomi, Matsuda Ken-ichi, Enoki Kaori, Inomata Chisato, Takeshita Hajime, Mihara Yusuke, Hatta Kodai, Gondo Yasuyuki, Kamide Kei, Masui Yukie, Ishizaki Tatsuro, Arai Yasumichi, Maeda Yoshinobu	4. 巻 63
2. 論文標題 Relationship between oral stereognostic ability and dietary intake in older Japanese adults with complete dentures	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Prosthodontic Research	6. 最初と最後の頁 105 ~ 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpjor.2018.10.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okubo Hitomi, Murakami Kentaro, Inagaki Hiroki, Gondo Yasuyuki, Ikebe Kazunori, Kamide Kei, Masui Yukie, Arai Yasumichi, Ishizaki Tatsuro, Sasaki Satoshi, Nakagawa Takeshi, Kabayama Mai, Sugimoto Ken, Rakugi Hiromi, Maeda Yoshinobu, SONIC Study Group	4. 巻 46
2. 論文標題 Hardness of the habitual diet and its relationship with cognitive function among 70-year-old Japanese elderly: Findings from the SONIC Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Oral Rehabilitation	6. 最初と最後の頁 151 ~ 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/joor.12731	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hatta Kodai, Ikebe Kazunori, Gondo Yasuyuki, Kamide Kei, Masui Yukie, Inagaki Hiroki, Nakagawa Takeshi, Matsuda Ken-ichi, Ogawa Taiji, Inomata Chisato et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 Influence of lack of posterior occlusal support on cognitive decline among 80-year-old Japanese people in a 3-year prospective study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1439 ~ 1446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mihara Yusuke, Matsuda Ken-ichi, Hatta Koudai, Gondo Yasuyuki, Masui Yukie, Nakagawa Takeshi, Kamide Kei, Ishizaki Tatsuro, Arai Yasumichi, Maeda Yoshinobu, Ikebe Kazunori	4. 巻 45
2. 論文標題 Relationship between gerotranscendence and oral health-related quality of life	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Oral Rehabilitation	6. 最初と最後の頁 805 ~ 809
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/joor.12691	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mihara Yusuke, Matsuda Ken-ichi, Ikebe Kazunori, Hatta Koudai, Fukutake Motoyoshi, Enoki Kaori, Ogawa Taiji, Takeshita Hajime, Inomata Chisato, Gondo Yasuyuki, Masui Yukie, Kamide Kei, Sugimoto Ken, Kabayama Mai, Ishizaki Tatsuro, Arai Yasumichi, Maeda Yoshinobu	4. 巻 35
2. 論文標題 Association of handgrip strength with various oral functions in 82- to 84-year-old community-dwelling Japanese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Gerodontology	6. 最初と最後の頁 214 ~ 220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ger.12341	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fukutake Motoyoshi, Ogawa Taiji, Ikebe Kazunori, Mihara Yusuke, Inomata Chisato, Takeshita Hajime, Matsuda Kenichi, Hatta Kodai, Gondo Yasuyuki, Masui Yukie, Inagaki Hiroki, Arai Yasumichi, Kamide Kei, Ishizaki Tatsuro, Maeda Yoshinobu	4. 巻 23
2. 論文標題 Impact of cognitive function on oral perception in independently living older people	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clinical Oral Investigations	6. 最初と最後の頁 267 ~ 271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00784-018-2433-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagasawa Motonori, Takami Yoichi, Akasaka Hiroshi, Kabayama Mai, Maeda Satomi, Yokoyama Serina, Ishizaki Tatsuro, Ikebe Kazunori, Gondo Yasuyuki, Kamide Kei, Rakugi Hiromi et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 High plasma adiponectin levels are associated with frailty in a general old-old population: The Septuagenarians, Octogenarians, Nonagenarians Investigation with Centenarians study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 839 ~ 846
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13258	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 16.Congrains A, Kamide K, Oguro R, Nakama C, Imaizumi Y, Kawai T, Kusunoki H, Yamamoto H, Onishi-Takeya M, Takeya Y, Kabayama M, Yamamoto K, Sugimoto K, Ikebe K, Gondo Y, Rakugi H.	4. 巻 1
2. 論文標題 ANRIL in Chromosome 9p21 may be Contributing to Human Aging and Modulates Gene Expression in Vascular Endothelial Cells.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 American Journal of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikebe Kazunori, Gondo Yasuyuki, Kamide Kei, Masui Yukie, Ishizaki Tataro, Arai Yasumichi, Inagaki Hiroki, Nakagawa Takeshi, Kabayama Mai, Ryuno Hirochika, Okubo Hitomi, Takeshita Hajime, Inomata Chisato, Kurushima Yuko, Mihara Yusuke, Hatta Kohdai, Fukutake Motoyoshi et al.	4. 巻 13
2. 論文標題 Occlusal force is correlated with cognitive function directly as well as indirectly via food intake in community-dwelling older Japanese: From the SONIC study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0190741	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagasawa Motonori, Takami Yoichi, Akasaka Hiroshi, Kabayama Mai, Maeda Satomi, Yokoyama Serina, Fujimoto Taku, Nozato Yoichi, Imaizumi Yuki, Takeda Masao, Itoh Norihisa, Takeya Yasushi, Yamamoto Koichi, Sugimoto Ken, Nakagawa Takeshi, Masui Yukie, Arai Yasumichi, Ishizaki Tataro, Ikebe Kazunori, Gondo Yasuyuki, Kamide Kei, Rakugi Hiromi	4. 巻 -
2. 論文標題 High plasma adiponectin levels are associated with frailty in a general old-old population: The Septuagenarians, Octogenarians, Nonagenarians Investigation with Centenarians study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13258	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa Takeshi, Gondo Yasuyuki, Ishioka Yoshiko, Masui Yukie	4. 巻 59
2. 論文標題 Age, Emotion Regulation, and Affect in Adulthood: The Mediating Role of Cognitive Reappraisal	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Research	6. 最初と最後の頁 301 ~ 308
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jpr.12159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tada Sayaka, Ikebe Kazunori, Kamide Kei, Gondo Yasuyuki, その他	4. 巻 12
2. 論文標題 Relationship between atherosclerosis and occlusal support of natural teeth with mediating effect of atheroprotective nutrients: From the SONIC study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0182563	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安元佐織, 権藤恭之, 中川威, 増井幸恵	4. 巻 39
2. 論文標題 百寿者にとっての幸福感の構成要素	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 老年社会科学	6. 最初と最後の頁 365-373
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gondo Yasuyuki, Hirose Nobuyoshi, Yasumoto Saori, Arai Yasumichi, Saito Yasuhiko	4. 巻 99
2. 論文標題 Age verification of the longest lived man in the world	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Experimental Gerontology	6. 最初と最後の頁 7~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.exger.2017.08.030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakagawa Takeshi, Cho Jinmyoung, Gondo Yasuyuki, Martin Peter, Johnson Mary Ann, Poon Leonard W., Hirose Nobuyoshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Subjective well-being in centenarians: a comparison of Japan and the United States	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Aging & Mental Health	6. 最初と最後の頁 1~8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13607863.2017.1348477	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 権藤恭之	4. 巻 30
2. 論文標題 百寿者研究から見た望ましい老いのあり方, 環境と健康	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 環境と健康	6. 最初と最後の頁 14-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 権藤恭之	4. 巻 55
2. 論文標題 老年的超越の発達を促す社会的側面 社会的ネットワークと社会的活動に関する考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Geriatric Medicine (老年医学)	6. 最初と最後の頁 151-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuno Hirochika, Kamide Kei, Gondo Yasuyuki, その他	4. 巻 40
2. 論文標題 Longitudinal association of hypertension and diabetes mellitus with cognitive functioning in a general 70-year-old population: the SONIC study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Hypertension Research	6. 最初と最後の頁 665 ~ 670
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/hr.2017.15	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 権藤恭之, 中川威, 石岡良子	4. 巻 26
2. 論文標題 老いと闘うか? 老いと共生するか? こころのアンチエイジングはありうるのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医学の歩み	6. 最初と最後の頁 668-672
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計42件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 蔡羽淳, 権藤恭之, 安元佐織, 松本清明, 増井幸恵, 稲垣宏樹, 二瓶美里, 菅原育子, 江原望, 井上剛伸
2. 発表標題 : 支援機器の使用と主観的幸福感の関係.
3. 学会等名 日本老年社会科学学会第61回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 権藤恭之, 増井幸恵, 新井康通
2. 発表標題 : 百寿者研究の目的と成果 (大会企画シンポジウム「百寿者研究」).
3. 学会等名 日本老年社会科学会第61回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsai, Y. C., Gondo, Y., Yasumoto, S., Matsumoto, K., Masui, Y., Inagaki, H., Nihei, M., Sugawara, I., Ehara, N., Inoue, T., MacLachlan, M., & MacAuliffe, E.
2. 発表標題 Using assistive devices related to residence type.
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, Taiwan, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 153. Matsumoto, K., Gondo, Y., Yasumoto, S., Arai, Y., Kamide, K., Ikebe, K., Masui, Y., Yoshida, Y., & Ishizaki, T.:
2. 発表標題 Proposing standard reference values of physical performance for 90 years old.
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, Taiwan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 権藤恭之・安元佐織・藤原佳典
2. 発表標題 超高齢社会における生きがいと健康 就労・地域参加を考える
3. 学会等名 日本健康心理学会第31回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 権藤恭之・須田木綿子・松岡千代
2. 発表標題 老年社会科学研究のための研究倫理
3. 学会等名 日本老年社会学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 権藤恭之・鈴木宏幸・宇良千秋・目黒謙一
2. 発表標題 「老い」と生きる 長寿社会における「老いる」ことの意味と共生を考える
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 沼田恵太郎・橋本裕美・堀麻祐子・権藤恭之
2. 発表標題 次世代への関心が高齢者の潜在的認知に与える影響 世代性プライミング課題を用いた実験的検討
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 蔡羽淳・権藤恭之・安元佐織
2. 発表標題 百寿者の主観的幸福感の関連要因についての検討
3. 学会等名 第60回老年社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本清明・権藤恭之・神出計・池邊一典・増井幸恵・石崎達郎
2. 発表標題 嗜好品の継続摂取が高齢者の心身の機能に与える影響に関する縦断的検討
3. 学会等名 第13回応用老学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三原佑介・野崎一徳・八田昂大・福武元良・佐藤仁美・権藤恭之・神出計・増井幸恵・石崎達郎・新井康通・池邊一典
2. 発表標題 機械学習を用いた運動機能と全身指標ならびに口腔機能との関連についての検討
3. 学会等名 第5回日本サルコペニア・フレイル学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中健太・赤木優也・樺山舞・赤坂憲・杉本研・池邊一典・権藤恭之・樂木宏実・神出計
2. 発表標題 地域在住高齢者における長寿関連遺伝子サーチイン遺伝子一塩基多型と骨粗鬆症の関連
3. 学会等名 第29回日本老年医学会近畿地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野間智子・樺山舞・樋口温子・杉本研・権藤恭之・新井康通・石崎達郎・池邊一典・樂木宏実・神出計
2. 発表標題 地域在住高齢者における貧血と主観的健康感の関連性：SONIC研究
3. 学会等名 第29回日本老年医学会近畿地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 車千鶴・樺山舞・赤木優也・樋口温子・和田直子・杉本研・池邊一典・権藤恭之・樂木宏実・神出 計
2. 発表標題 高齢者における体格指数で分類した肥満と頸動脈硬化との関連
3. 学会等名 第29回日本老年医学会近畿地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Klinpuktan, N., Akagi, Y., Kabayama, M., Srithumsuk, W., Sugimoto, K., Ikebe, K., Gondo, Y., Rakugi, H., & Kamide, K.
2. 発表標題 Characteristics of heart disease in community dwelling old peoples:SONIC study
3. 学会等名 第29回日本老年医学会近畿地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Srithumsuk, W., Akagi, Y., Kabayama, M., Klinpuktan, N., Sugimoto, K., Ikebe, K., Gondo Y, Rakugi, H., Kamide, K.
2. 発表標題 Prevalence of stroke and associated factors in Japanese community dwelling old peoples-SONIC study
3. 学会等名 第29回日本老年医学会近畿地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野口航・福川康之・樺山舞・増井幸恵・稲垣宏樹・小川まどか・神出計・石崎達郎
2. 発表標題 高齢者の信頼感と社会参加および精神的健康の関連についての縦断的検討
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榊山舞・神出計・権藤恭之・山本浩一・杉本研・赤坂憲・増井幸恵・新井康通・石崎達郎・樂木宏実
2. 発表標題 地域在住高齢者における年代別血圧値と3年後調査脱落率との関連性：SONIC研究
3. 学会等名 第54回日本循環器病予防学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田直子・榊山舞・権藤恭之・増井幸恵・安元佐織・杉本研・新井康通・石崎達郎・樂木宏実・神出 計
2. 発表標題 地域在住高齢者の生活習慣病と対人交流・余暇活動との関連についての検討：SONIC研究
3. 学会等名 第54回日本循環器病予防学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋口温子・榊山舞・清重映里・赤木優也・赤坂憲・杉本研・池邊一典・権藤恭之・樂木宏実・神出 計
2. 発表標題 地域在住高齢者における血清脂質プロファイルと頸動脈硬化との関連：SONIC研究
3. 学会等名 第54回日本循環器病予防学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋口温子・榊山舞・山本浩一・杉本研・新井康通・石崎達郎・池邊一典・権藤恭之・樂木宏実・神出 計
2. 発表標題 地域在住高齢者における血清脂質プロファイルと認知機能との関連性：SONIC研究
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清重映里・神出計・樺山舞・増井幸恵・稲垣宏樹・池邊一典・新井康通・石崎達郎・樂木宏実・権藤恭之
2. 発表標題 70歳前後の地域在住高齢者における認知機能の経時変化 (SONIC研究)
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村友美・権藤恭之・池邊一典・神出計・石崎達郎・増井幸恵
2. 発表標題 高齢者の孤食の地域特徴と精神的健康および社会的活動度との関連
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤木優也・神出計・樺山舞・龍野洋慶・赤坂憲・山本浩一・杉本研・池邊一典・権藤恭之・樂木宏実
2. 発表標題 地域在住高齢者におけるフレイル関連遺伝子多型と握力の縦断比較 SONIC研究
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樺山舞・神出計・権藤恭之・山本浩一・杉本研・増井幸恵・稲垣宏樹・新井康通・石崎達郎・樂木宏実
2. 発表標題 高齢者における血圧値と3年後認知機能低下の年代別関連性の検討 (SONIC研究)
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田直子・樺山舞・権藤恭之・増井幸恵・安元佐織・杉本研・新井康通・石崎達郎・樂木宏実・神出 計
2. 発表標題 地域在住高齢者における糖尿病管理と社会的要因との関連
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中健太郎・樺山舞・杉本研・赤坂憲・池邊一典・新井康通・石崎達郎・権藤恭之・樂木宏実・神出 計
2. 発表標題 地域一般住民高齢者を対象にした血清尿酸と頸動脈アテローム性動脈硬化症との関連について SONIC研究
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤山泰佳・樺山舞・権藤恭之・増井幸恵・杉本研・池邊一典・新井康通・石崎達郎・樂木宏実・神出 計
2. 発表標題 喫煙と糖尿病が地域在住男性高齢者の握力に及ぼす影響について
3. 学会等名 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤 拓之・権藤 恭之・増井 幸恵・稲垣 宏樹・中川 威・石岡 良子・沼田 恵太郎・小野口 航
2. 発表標題 系列位置曲線の加齢変化に対するモデルベースアプローチ SONIC研究の縦断データへのSIMPLEモデルの適用
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤 拓之・権藤 恭之・稲垣 宏樹・増井 幸恵・小川 まどか・沼田 恵太郎・小野口 航・石岡 良子・内芝 綾女・田淵 恵
2. 発表標題 超高齢者の空間的視点取得能力を測る SONIC研究におけるラインマップテストの実施
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gondo, Y., Masui, Y., Inagaki, H., Ishioka, Y., Nakagawa, T., & Yasumoto, S.
2. 発表標題 Defining Successful Aging based on the Oldest-old.
3. 学会等名 U.S. - Hong Kong 2018 Conference: Aging across Time and Contexts (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirose, N., Gondo, Y., Yasumoto, S., Saito, Y., Arai, Y., & Yasuhara, M.
2. 発表標題 Clinical Course Of The Longest Lived Man In The World -Case Report-.
3. 学会等名 GSA 2018 Annual Scientific Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fukutake M, Hatta K, Sato H, Mihara Y, Inomata C, Takeshita H, Enoki K, Matsuda K, Gondo Y, Kamide K, Arai Y, Ishizaki T, Masui Y, Maeda Y, Ikebe K.
2. 発表標題 Influence of occlusal force on malnutrition in older adults.
3. 学会等名 96th General Session & Exhibition of the IADR (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hatta K, Matsuda K, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Ishizaki T, Arai Y, Sugimoto K, Mihara Y, Inomata C, Takeshita H, Enoki K, Fukutake M, Sato H, Maeda Y, & Ikebe K
2 . 発表標題 Occlusal contacts predict decline in cognitive decline in 3-years.
3 . 学会等名 96th General Session & Exhibition of the IADR (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Akagi Y, Kamide K, Kabayama M, Akasaka H, Sugimoto K, Yamamoto K, Gondo Y, Ikebe K, Masui Y, Ishizaki T, Arai Y, & Rakugi H
2 . 発表標題 Gene polymorphisms of frailty are associated with atherosclerosis in old Japanese: The SONIC study.
3 . 学会等名 27th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Godai K, Kabayama M, Yamamoto K, Sugimoto K, Arai Y, Ishizaki T, Ikebe K, Gondo Y, Rakugi H, Kamide K.
2 . 発表標題 The association of the measuring blood pressure at home with cognitive functioning among community-dwelling elderly.
3 . 学会等名 23rd EAFONS 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kabayama M, Kamide K, Gondo Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Masui Y, Inagaki H, Arai T, Ishizaki T, Rakugi H.
2 . 発表標題 The Association of the blood pressure level with the cognitive decline after 3 years among community-dwelling older people:SONIC study.
3 . 学会等名 Hypertension Beijing 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Akagi Y, Kamide K, Kabayama M, Akasaka H, Sugimoto K, Yamamoto K, Gondo Y, Ikebe K, Masui Y, Ishizaki T, Arai Y, Rakugi H.
2. 発表標題 Gene polymorphisms of frailty are associated with Atherosclerosis in old Japanese: The SONIC study.
3. 学会等名 Hypertension Beijing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Higuchi A, Kabayama M, Kiyoshige E, Akagi Y, Akasaka H, Sugimoto K, Ikebe K, Gondo Y, Rakugi H, Kamide K.
2. 発表標題 Relationship between serum lipid profiles and carotid arteriosclerosis in community dwelling old population: SONIC study.
3. 学会等名 Hypertension Beijing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wada N, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Yasumoto S, Sugimoto K, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K.
2. 発表標題 Interpersonal exchanges and Leisure activities are associated with Hypertension and Diabetes in community-dwelling old Japanese: the SONIC study.
3. 学会等名 Hypertension Beijing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 権藤恭之
2. 発表標題 百寿者の心理 - 幸福感からのアプローチ -
3. 学会等名 第30回日本老年学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 権藤恭之
2. 発表標題 : 高齢者の「こころ」と「からだ」の健康に関連する要因の探索 SONIC研究の成果から
3. 学会等名 第58回日本心身医学会(招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 権藤恭之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本臨牀社	5. 総ページ数 200-204
3. 書名 老年医学(上) 基礎・臨床研究の最新動向	

〔産業財産権〕

〔その他〕

健康長寿研究 http://www.sonic-study.jp/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	石崎 達郎 (Ishizaki Teturo) (30246045)	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所)・東京都健康長寿医療センター研究所・研究部長 (82674)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------